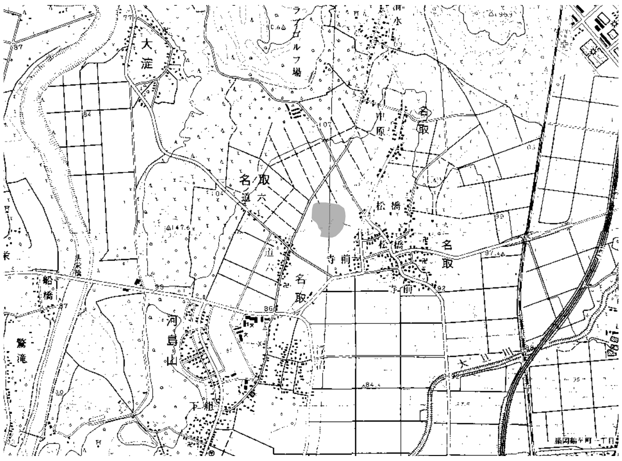
田向（たむかい）遺跡（第２次）

遺跡番号　208-132
調査次数　第２次
所在地　山形県村山市大字名取字田向
北緯・東経　140 度 37 分 02 秒・38 度 50 分 63 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業　東北中央自動車道（東根～尾花沢）
調査面積　200 ㎡
受託期間　平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
現地調査　平成 23 年 5 月 16 日～ 6 月 13 日
調査担当者　大場正善（現場責任者）・板橋龍
調査協力　村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別　集落跡
時代　縄文時代・平安時代・近世
遺構　倒木痕
遺物　陶器・磁器　（文化財認定箱数：１箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

田向遺跡は、最上川左岸の河島山丘陵南麓に広がる低地部で、山形盆地と尾花沢盆地の境界付近に立地する。22 年度は遺跡範囲の南側 3,600 ㎡（A 区）と北側 400 ㎡（B 区）で調査を行い、溝跡、土坑、柱穴など約 300 基あまりの遺構と、少量の土師器、須恵器、陶磁器片を発見した。

23 年度は、B 区北辺の隣接地 200 ㎡について調査を行った。

遺構と遺物

調査区の中央と南側、そして東側で 3 基の倒木痕を確認した。倒木痕の存在は、現在の畑地に造成される以前に、ここに樹木があったことを示している。

南側の倒木痕の堆積土からは、近世末期ころと思われる磁器片が出土したことから、樹木が倒れたのは、近世末期ころにさかのぼる可能性がある。南側と中央部の倒木痕は土層の堆積状況から、西側に倒木したと考えられ、東側は不明である。

また、調査区からは同時期ころと思われる陶器・磁器片が 6 点出土しており、近世末期に調査区周辺でヒトの何らかの営みがあったと思われる。

まとめ

22 年度の調査成果もあわせて考えると、遺構の主な広がりは 22 年度の B 区までであったことが分かった。23 年度の調査では、遺跡の北辺に樹木が植生していたこと、近世末期にヒトの何らかの営みがあった可能性があることが分かった。